

特別講演

Pharmacy in Public Health

野村香織 東京慈恵会医科大学分子疫学研究室

【緒言】

薬学部で学ぶ公衆衛生学の知識は、水・大気・食品などの衛生向上を通じて、人々が安全に社会活動を行うために必要な環境を整えることに役立っている。日本では、「Public Health」を「公衆衛生」と訳すことが多いが、日本の薬学教育における「公衆衛生学」が担っている範囲と、英国などの「Public Health」が網羅する範囲は異なっている。「公衆衛生」および「Public Health」に対して日本の薬局・薬剤師は貢献しているといえるのかどうか、また、英国の薬局業務の様子を紹介すると共に、英国では薬局を通じてどのように「Public Health」に貢献しようとしているのか、概説する。

【概要】

Public Health とは集団全体としての人々の疾病の予防、健康増進、寿命延長に関わる組織化された取り組み全体を指し、特定の個人や疾患ではなく、集団に着目した健康な状態を提供することを目的とした活動である。大まかに分けて、健康の保護及び予防、医療及び社会的ケア、健康増進、の3分野がある。Public Health に関するキャンペーンは様々あり、日本で2000年から進められている「健康日本21」もその一つといえる。行政では保健所が各地域の Public Health を担っているといえる。英国で考えられている薬局・薬剤師の主要な役割は、Community Pharmacy として一次医療に携わることである。例えば、人々の健康の保護及び予防のために薬局で提供できるサービスとして、患者が余らせてしまった医薬品を適切に処分すること、禁煙アドバイス、副作用の発現等の患者のフォローアップ (Pharmacovigilance)、などがある。残薬を減らす活動も重要で、処方医と連携することで、処方内容が適正化することができる。英国では一次医療としての薬局の役割が拡大しつつあるが、そこには責任が伴う。どのような活動を行うかは、必要性評価 (needs assessment) に基づくべきであり、何が必要とされ、何をどのように公平に提供することが可能で、サービスを受ける人々がどのような負担を強いられるか、ということを経験的に考えた上で、実施するサービスを定めることが重要である。また、病院勤務の薬剤師は二次医療において Public Health に貢献できる。二次医療での薬剤師の役割には、医薬品に関連する事故を防止することや、副作用の防止や投薬後の経過観察を通じて早期発見に関わることなどがある。このように基本的な薬剤師業務を行うことが社会への貢献につながっている。高齢者、慢性疾患、健康増進、疾患予防などの課題に対しては薬局・薬剤師も役割を担う必要がある。地域包括ケアや地域での活動にどのように薬局・薬剤師が関わるか、Public Health を踏まえて、他の関係者とともに検討されることが期待される。

【総括】

日本においても、薬剤師は薬局や医療機関の薬剤師業務を通じて Public Health に貢献している。地域に貢献する薬局として、医薬品や衛生材料等に関する業務を適切に実施することは当然のこととして、今後いっそう、社会的課題に関係者と共に取り組むべきではないか。地域住民の健康に対する薬局の役割を考える際には、Public Health の視点や地域のあらゆる関係者との信頼関係が欠かせない。